

2023/7/6

## 塀の中から

15期 金属工学科卒：鎌田忠

「お父さんはネ、十代末の5年間、<sup>へい</sup>塀の中でお務めしてたんだよ。」と<sup>うち</sup>家の子供達に話始めると「もうその話は聞き飽きた。」と言って耳を傾けてくれません。

寝起きを共にして同じ釜の飯を食べ暮らした寮と学び舎が同じ塀の中にあって、昼も夜も仲間と過ごした5年間でした。

柔道部に所属して個人戦で全国大会まで行きましたが予選で敗退しました。全国優勝したA先輩やS先輩など輝かしい実績がある柔道部です。軽量級に出るために3か月で7kg減量したこともあります。明確な目的があれば減量は難しくはないのですが、パワーと技のキレを維持することの難しさを感じました。

国領祭ではスーパーカー「ランボールギーニ カウンタック（ダンボール製）」や「ねぶた」を作りました。「ねぶた」は校長賞を貰いました。金属工学科は体育祭でも団結力を発揮していました。

卒業後、埼玉県の住宅会社に就職しました。新居浜高専の金属工学科卒でなぜ埼玉の住宅会社なのかと当時よく聞かれましたが、金属業界の景気があまり良くなくて衣食住のどれかであれば食べていけるかと思ったのでしょう。

入社後4年余りは宅地造成工事をやりました。土木作業員と言うと社会的評価は高くありませんが、ある土建屋の社長は「俺は地球彫刻家だ」と誇りを持っていました。「地図に残る仕事」というフレーズもありましたが何事も考え方次第だと思います。

その後木材を加工する部門に移り、主に木材仕入れの仕事を30年余り担当しました。仕入れの為、多くの産地に出張しました。

海外は北米、欧州、ロシア、中国などへ出張しました。そこでは、英語をもっと勉強しておけば良かったとつくづく後悔したものです。北米のロッキー山脈、北欧の白夜、ストックホルムでのクルージング、バルト三国の旧市街などはとても印象的でした。残念ながらオーロラは見ていません。今はフィンランドのヘルシンキに事務所があり3名の社員が勤務しています。

国内では津軽半島にしばらく駐在していました。東北自動車道がまだ全面開通する前、十和田～碓ヶ関間は暗い山道をジープで走ったこともありましたが、初めて赴任したのは7月初旬だったにも関わらず「やませ」が吹いて寒くて、薪ストーブを焚いて過ごしたこともありましたが、津軽地方では、冷夏の年は秋になっても稲穂に全く実が入らないのに、仕方なくそのまま刈り取っている姿を見た事もありました。津軽の冬は地吹雪が有名です。田んぼや畑に落ちている車をよく見かけました。

住宅事業は今も関東のみで展開していますが木材の加工販売事業は全国に6つの工場があり、北海道以外に供給しています。全国の木造軸組み住宅の構造部材を、約10%以上供給しています。

滋賀県にも工場がありますが、高専は存在しておりませんでした。そこへ、高専を作ろうということで県立の高専を開校する準備が進んでいるようです。これから学生が減って大学が余ってくる時代ですが、高専の価値を理解し産業界からの強い要請もあったものと思います。我々卒業生もその期待に応えていきたいものです。住宅会社に入ったので、金属工学科卒ではありますが、建築士や宅建士の資格を取りました。高専で学んだ力学などは活かされたかと思いますが、金属ではなく木材との付き合いが長くなっています。

入社当時、社員が約300名、売上が約300億円でしたが、今はおよそ10倍の規模になりました。

わが社の心得の一つに「会社が悪いということは絶対にない。会社が悪いというのは社長が悪いか、管理者が悪いか、社員が悪いかである」というものがあります。会社の実体は経営者も含めた社員であるということです。日本が悪いというのは日本人である私の責任であると、日本人一人ひとりが当事者意識を強く持って他人のせいにしなくて、諦めないで、より良い日本にしていきたいものです。

埼玉の会社ということで、Jリーグ浦和レッズのパートナー企業として応援させてもらっています。創業者が徳島出身ということもあり「南越谷阿波踊り」にも協賛しています。埼玉県越谷市で今年は8月26日（土）、27日（日）に開催予定です。お近くの方はぜひお越しください。

—以上—